

戦国夢街道ハイキングコースは3コース

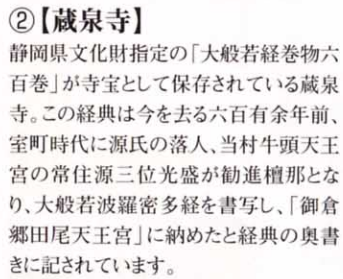
■半命コース4.1km ■三丸コース5.5km ■塩の道コース8.5km

見どころのご案内



①【舟場の薬師様】

舟場地域は、今から約五十年程前まで、約十数戸以上の家がありました。薬もなく、医者もない山の中で生活する村人たちは信仰心が厚く、お堂を建てて、薬師如来をお祀りし「薬師様」とよんで崇敬してきました。「薬師様」は平安の昔より耳の病気を癒してくれる仏様だと言われています。



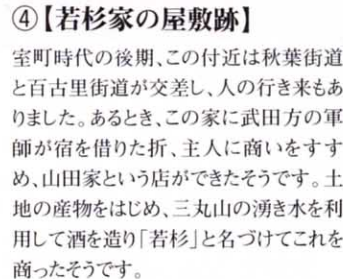
②【蔵泉寺】

静岡県文化財指定の「大般若経巻物六百巻」が寺宝として保存されている蔵泉寺。この経典は今を去る六百有余年前、室町時代に源氏の落人、当村牛頭天王宮の常住源三位光盛が勧進檀那となり、大般若波羅密多經を書写し、「御倉郷田尾天王宮」に納めたと経典の奥書に記されています。



③【不動の滝】

昔、この辺りは深い森になっており、秋葉街道は、光明山や秋葉の山、さらに深い龍頭山へと向かう山岳信仰の修験者の街道でもありました。修験者たちは、この深い森の静寂と清澄な谷川の醸し出す幽玄の中で、不動の滝にうたれる荒行に励み、精進潔斎をして神に祈ったことでしょう。



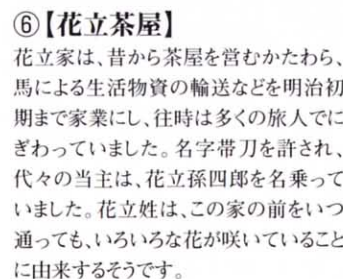
④【若杉家の屋敷跡】

室町時代の後期、この付近は秋葉街道と百古里街道が交差し、人の行き来もありました。あるとき、この家に武田方の軍師が宿を借りた折、主人に商いをすすめ、山田家という店ができたそうです。土地の産物をはじめ、三丸山の湧き水を利用して酒を造り「若杉」と名づけてこれを商ったそうです。



⑤【大久保八幡神社】

信濃への交通路としてこの村に人が住むようになったのは、室町中期の頃と言われています。そこに住む村人の心のよりどころとして村のそれぞれの地に神社が祀られました。八幡神社はこの地に貞享元年(1684年)に建立されたと言われ、神殿は森町では古い建築物と言われています。



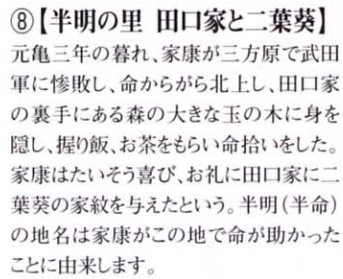
⑥【花立茶屋】

花立家は、昔から茶屋を営むかわら、馬による生活物資の輸送などを明治初期まで家業にし、往時は多くの旅人でにぎわっていました。名字帯刀を許され、代々の当主は、花立孫四郎を名乗っていました。花立姓は、この家の前をいつ通っても、いろいろな花が咲いていることに由来するそうです。



⑦【万歳坂】

このあたり一帯は、浜松城の徳川軍と大居城の天野軍(武田方)の戦った古戦場で、戦いを優勢に展開した天野軍が、この坂道付近で勝ちどきをあげたので、ここを「万歳坂」と呼ぶようになったそうです。近年まで、武士が着用した鎧などの金銀を含んだ「銀石」という石が出ると思われていました。



⑧【半明の里 田口家と二葉葵】

元亀三年の暮れ、家康が三方原で武田軍に惨敗し、命からがら北上し、田口家の裏手にある森の大きな玉の木に身を隠し、握り飯、お茶をもらい命拾いをした。家康はたいそう喜び、お礼に田口家に二葉葵の家紋を与えたという。半明(半命)の地名は家康がこの地で命が助かったことに由来します。



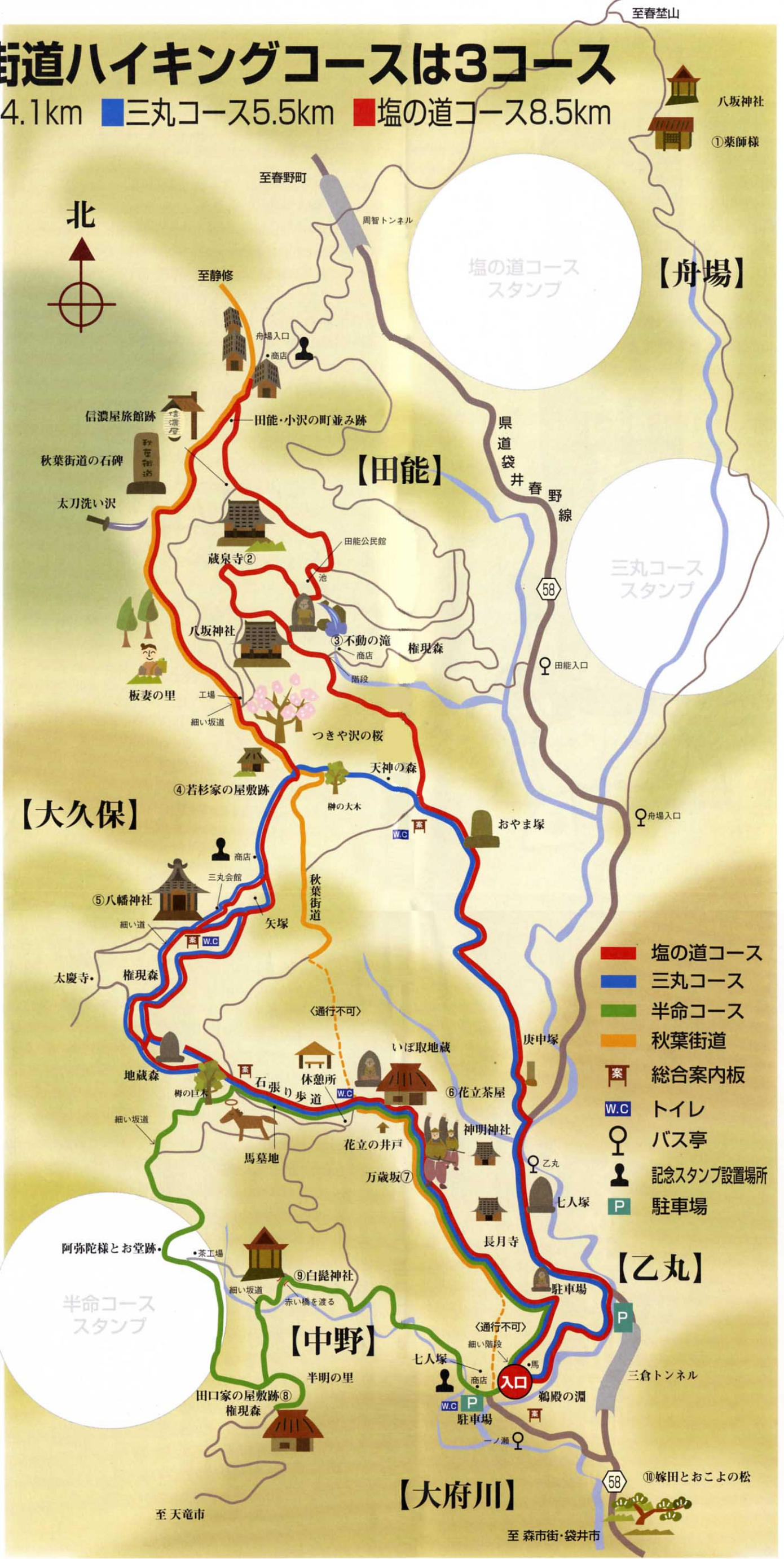
⑨【白髭神社】

遠い昔から中野村の氏神として祀られている白髭神社。棟札によると、享保六年(1721年)に再建されたことが分かります。白髭神社というのは、比良明神で名高い琵琶湖西岸の白髭神社がもとになり、各地に分霊して祀られたものと推定されます。御祭神の猿田彦神は、降臨の際の嚮導(道案内)の神です。



⑩【家康公と大府川・嫁田とおこよの松】

天正二年(1574年)、家康の犬居城攻めの折、傷を負った徳川方の武士が、この地の嫁の「おこよ」に山道を案内され無事に逃げる事ができたが、身重の「おこよ」は不運にも敵方の兵に見つかり、厳しい追求めに絶えられず、命を絶ってしまっ。土地の人々は、ここを嫁田と呼び弁天様を祀って供養しました。



●各コースには記念のスタンプをご用意しております。

●ハイキングには身軽な服装と運動靴などをご利用ください。●せまい山道は走らないようにしましょう。●コース内の自然の動植物を大切にしてください。●休憩所など決められた場所以外での喫煙はご遠慮ください。●ゴミなどは各自持ち帰りをお願いします。